

ホット・ ぽっと

Vol.34

横浜市総合保健医療センター 開設30周年記念号

横浜市総合保健医療センターは、本年、開設30周年を迎えました。これを記念し、この間の歩みと現在の取組を紹介する特集号を発行しました。

ご挨拶

公益財団法人横浜市総合保健医療財団 理事長 水野 恭一



当財団が、平成4年4月1日に設立され、精神障害者や要援護高齢者等の在宅支援及び地域医療等への支援を行う横浜市総合保健医療センターの管理運営を担って、30周年を迎えることができました。これもひとえに市民のみなさま並びに関係各機関の皆様のご支援・ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

この30年の間に、介護保険法制度の導入、障害者自立支援法、障害者総合支援法の施行など財団を取り巻く環境も大きく変化してきました。当財団はこのような変化に対応し、横浜市内で第1館目となる神奈川区精神障害者生活支援センターの運営や、同じく市内では初の若年性認知症支援コーディネーター事業の実施といった取組を進めるなど、常に横浜市の中で先駆的な役割を担ってきました。現在は、横浜市の指定管理者として総合保健医療センターを始め、神奈川区・磯子区の精神障害者生活支援センターの運営を担っており、公益的使命を果たすべく日夜努力を重ねています。

昨今の新型コロナウイルス対応では、感染防止を最優先としつつ、最大限必要なサービスを提供してきました。今後とも、30年にわたる実績とノウハウを活かし、質の高いサービス提供に努め、市民の皆様のご期待により一層応えられますよう役職員一体となって努めてまいりますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

横浜市総合保健医療センター長 塩崎 一昌

当センターは、平成4年10月1日から運営を開始し、お陰様を持ちまして、本年で30周年を迎えることができました。この間、当センターをはじめとして、神奈川区及び磯子区の両精神障害者生活支援センターの運営等を通じ、精神障害者支援、要援護高齢者支援、地域医療支援等に資するよう努めてまいりました。

精神障害者支援の分野においては、「医療」「生活」「就労」の3つの面から総合的な支援を行い精神障害者の地域生活を支え、要援護高齢者支援の分野においては介護度と医療ニーズの高い方の支援などに取り組み、特に、認知症支援の分野では、「認知症疾患医療センター（連携型）」の指定を受けるなど、地域における保健・医療・福祉の向上を図る役割や在宅の認知症高齢者を支援する役割の一翼を担ってまいりました。また、地域医療支援の分野では、地域医療機関に対しCTやMRI等の高度医療機器の共同利用による支援などを行ってまいりました。

まだまだコロナ禍の終息が見えない状況ですが、運営する各施設において、感染防止に努めつつ、できるかぎりの対応を取り、サービスの提供に努めてまいります。市民の皆様、関係各機関の皆様には、引き続きご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。





横浜市総合保健医療センター 開設30周年を迎えて

横浜市長 **山中竹春**

横浜市総合保健医療センターが開設30周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

横浜市総合保健医療センターが開設された30年前、急速な高齢化の進展による寝たきりや認知症等の援護を必要とする方の増加や、複雑化する社会環境の中でこころの病を抱える方の社会復帰支援など、援護を必要とする方に対する支援が行政施策上の大きな課題となっていました。その中で、特に、在宅で援護を必要とする方々に対して保健・医療・福祉のサービスを一体的に提供していくため、本市では、平成4年10月に横浜市総合保健医療センターを開設し、その運営を公益財団法人横浜市総合保健医療財団に担っていただきました。

この30年間、貴財団及び横浜市総合保健医療センターには、認知症診断及び外来治療をはじめ、介護老人保健施設、精神障害者生活支援センターや精神障害者就労支援センターの運営、精神障害者の地域移行・地域定着支援、また、この4月には新たに介護医療院を開設するなど、数多くの事業を先駆けて実施し、市民の皆様からのニーズにお応えするとともに、本市の施策の推進に大きな役割を果たしていただきました。

横浜市総合保健医療センターをはじめとした各施設が、多くの市民の皆様から高い評価を得てきたのは、これらの事業に携わる専門的なスタッフの方々など貴財団の職員の皆様の努力と研鑽の賜物であり、地域の保健・医療・福祉関係者の御支援によるものであると、改めて心から御礼を申し上げます。

特に一昨年から続く新型コロナウイルス感染症への対応では、御利用者様が安心してサービスを受けられるよう感染予防対策を徹底しながら、必要な事業の継続に御協力いただきました。重ねて御礼申し上げます。あわせて、長引くコロナ禍の中、現場で献身的に働いておられるスタッフの皆様には心からの感謝と賛辞を申し上げます。

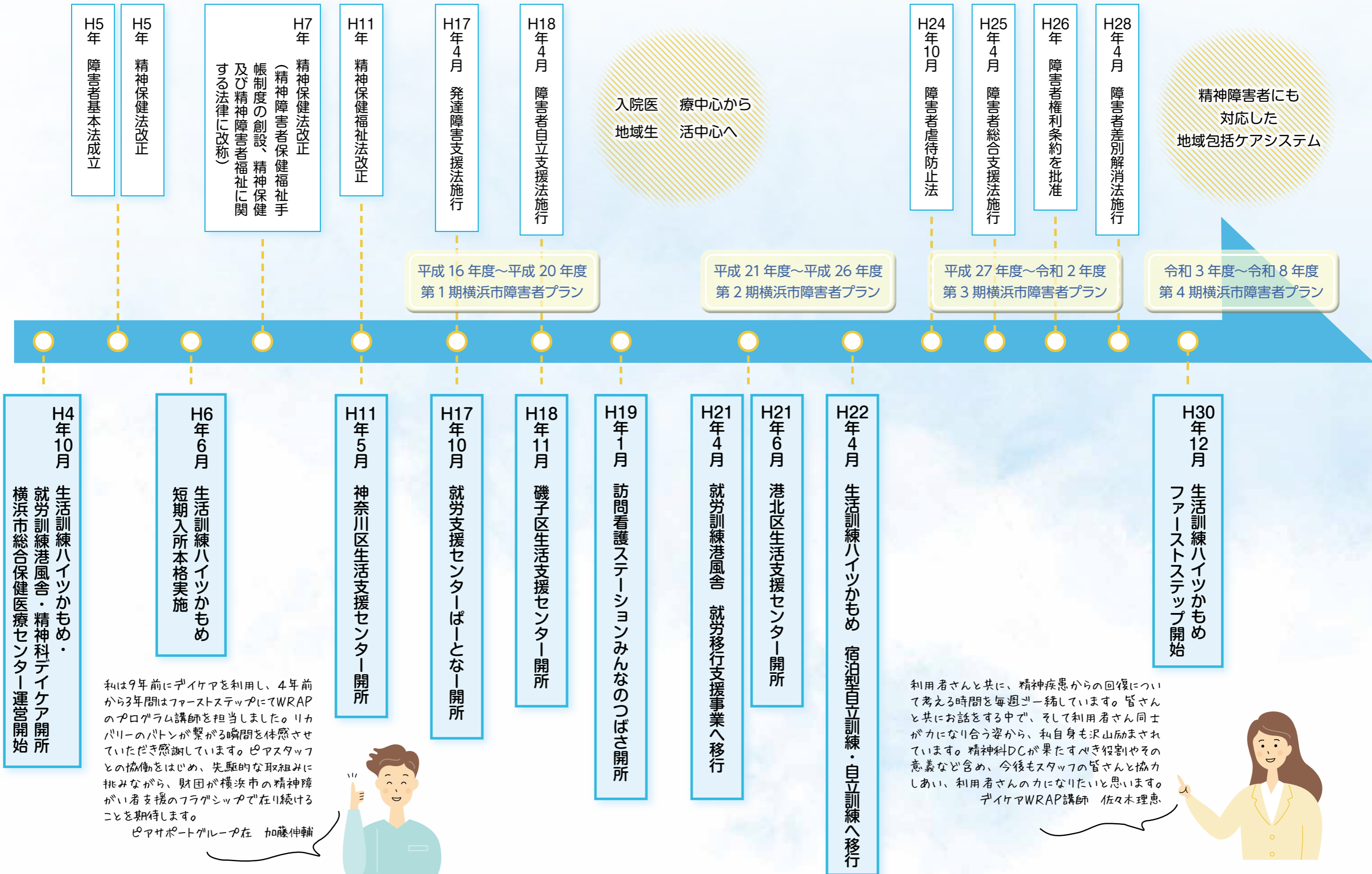
ここにめでたく30周年を迎え、新たなスタートをきりました貴財団及び横浜市総合保健医療センターの益々の御発展と、関係者の皆様の御健勝を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

横浜市総合保健医療財団・総合保健医療センター 30年のあゆみ

- 令和4年4月1日 総合保健医療センター介護療養型医療施設を廃止し介護医療院を開設
- 平成29年6月 若年性認知症支援コーディネーター事業開始
- 平成27年2月 総合保健医療センター診療所が横浜市認知症疾患医療センターに指定
- 平成25年4月 障害者総合支援法施行
- 平成24年4月 「財団法人」から「公益財団法人」横浜市総合保健医療財団へ移行
- 平成21年6月 港北区精神障害者生活支援センター運営開始
- 平成19年1月 訪問看護ステーションみんなのつばさ事業開始
- 平成18年11月 磯子区精神障害者生活支援センター運営開始
- 平成18年4月 障害者自立支援法施行
- 平成17年10月 横浜市精神障害者就労支援センター運営開始
- 平成12年4月 介護保険制度開始
介護老人保健施設・介護療養型医療施設「施設サービス」開始
- 平成11年5月 神奈川区精神障害者生活支援センター運営開始
横浜市で第1館目の精神障害者生活支援センターの運営を開始
- 平成4年10月 横浜市総合保健医療センター運営開始
老人保健施設、有床診療所、精神障害者支援施設（デイケア、就労訓練、生活訓練）の運営を開始
- 平成4年4月 財団法人横浜市総合保健医療財団設立

精神障害者支援の歩みと現在

精神障害者施策の変遷とセンター事業の歩み



リカバリーを応援します

就労訓練 港風舎

「働きたい」を叶えるために、所内での活動や、企業での実習などを通じて、自己特性と職業特性への理解を深めるための支援を実施する事業所です。1名の利用者に2名の担当で手厚くサポートできる体制を整えながら、個々の利用者の課題やニーズ、リカバリーに寄り沿った支援を展開します。

精神科デイケア

様々なプログラムや人との交流を通して自己理解を深めたり、疾患コントロール力をつけ社会復帰を目指す方が集う場所です。専門職スタッフがチームで支援し、社会活動の土台を作ります。

訪問看護 みんなのつばさ

平成19年に開設以来、精神疾患や認知症を持ちながら地域で暮らす方々への訪問看護サービスを提供しています。同じ地域で暮らす生活者でもある利用者さんの黒子であり時には伴走者として、これからも支援します。

神奈川区生活支援センター

横浜市の1号館として開館して23年、いまだに他区在住者の利用も多く、地域に根差した施設に成長。今後もリカバリーを重視した個別支援と、地域生活支援拠点としての機能強化を図っていくので、支援を必要としている方はまずは相談を。

【精神障害者 支援の方針】

私たちは精神障害のある方々のリカバリーを実現するために
本人と本人を取り巻く環境に働きかけます。
本人が主体的に人生を選択し、
地域の中で暮らしていくための支援をします。

就労支援センター ぱーとなー

お仕事をしたいと考えている方、働いている方、雇用を考えている企業の方など「働く」をキーワードにご相談をお受けしています。働き方のご相談、お仕事探し、就職後の定着支援などを定期的な面談や職場訪問でサポートします。ご利用される方を中心にそれぞれの「働く」を一緒に考え支援しています。

磯子区生活支援センター

地域で安心して暮らせるように対人関係、金銭管理、公的手続きなどの日常生活の相談や生活支援を行っています。
また、夕食、入浴サービスなどの生活サポートや各種プログラム、イベントにより地域の方々との交流・普及啓発を行っています。

港北区生活支援センター

対人関係、金銭管理、公的手続きなどの日常生活で様々な問題の相談を行っています。また、コロナ禍で止まっていたボランティア団体の各種プログラム・交流が活発に行われています。

生活訓練 ハイツかもめ

日中のプログラムや宿泊での訓練を通して一人ひとりのリカバリーの歩みに寄り添う支援を心掛けています。希望に応じた短期間の宿泊もできます。「ファーストステップ」をはじめ「まずは、やってみる」を応援しています。



リカバリーとは

当事者が主体となり夢や希望を実現するために進んでいくプロセスを意味します。

精神障害者支援施設の紹介はこちら▶



診療所の歩みと現在

診療所では、生活習慣病を中心とした内科診療、認知症鑑別を中心とした精神科診療、各種医療機器の共同利用を柱に外来診療を行ってきました。

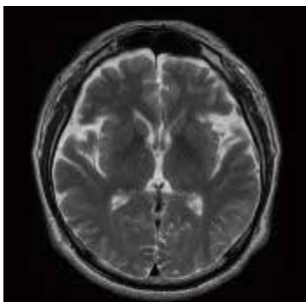
内科診療

生活習慣病の外来治療とともに、これまで毎年数回「健康づくり講座」を実施し、啓発活動も行ってきました（現在は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止中）。さらに、平成 20 年からは特定健康診査及び 75 歳以上の横浜市民を対象とした横浜市健康診査を実施しています。



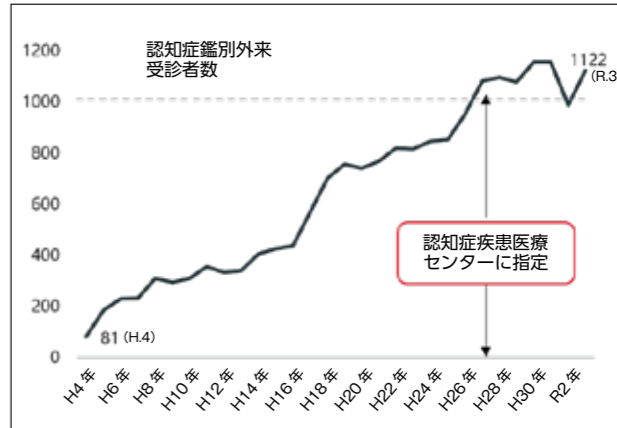
共同利用

横浜市内の地域医療機関と連携し、地域医療に寄与することを目的として、高度医療検査機器の共同利用を行っています。地域の医療機関では設置困難な 3 テスラ MRI（磁気共鳴画像装置）、CT（コンピュータ断層撮影装置）、核医学検査、運動負荷心電図、心臓超音波検査、脳波検査などを実施しています。



精神科診療

開設当初より認知症鑑別外来を行ってきました。平成 27 年 2 月より横浜市の「認知症疾患医療センター（連携型）」に指定され、認知症鑑別診断に加え、専門医療相談や地域保健医療関係者に対し研修などを実施してきました。認知症鑑別外来には年々希望者が増加し、年間 1,100 件以上の鑑別を行うようになり、全国有数の規模です。また、外来以外の活動として、平成 28 年 9 月からは港北区の認知症初期集中支援チームが横浜市により設置され、地域包括支援センター及び区福祉保健センター高齢・障害支援課と連携して、認知症の方やその家族への初期支援を開始しました。平成 29 年 6 月からは若年性認知症支援コーディネーターが横浜市で初めて配置され、若年性認知症の方に重点を置いたサポートを行っています。



認知症外来の紹介はこちら ▶



介護老人保健施設(しらさぎ苑) 有床診療所の

歩みと現在

歩み

- 平成4年9月 ● 認知症専門棟で通所リハビリテーション開始
- 12月 ● ご利用者との交流などのボランティア受け入れ開始
- 平成5年5月 ● 一般棟で通所リハビリテーション開始
- 8月 ● 老年看護学実習受け入れ開始
- 平成6年6月 ● 看護専門学校実習受け入れ開始
- 平成8年1月 ● 介護専門学校実習受け入れ開始
- 平成12年4月 ● 介護保険制度が導入され施設サービスを開始
- 平成13年4月 ● 一般棟と認知症専門棟の通所リハビリテーションを統合
- 平成16年10月 ● 全老健実地研修受け入れ開始
- 平成18年 ● 介護サービスの情報公表制度開始
- 平成18年・21年・24年 ● 福祉サービス第三者評価受審
- 平成22年10月 ● 文化祭を初開催、ふるさと港北ふれあいまつりに参加
- 平成24年10月 ● センター開所20周年を記念して中庭に「ゆず」の木を植樹
- 平成29年4月 ● 介護相談開始
- 平成30年4月 ● 在宅復帰・在宅療養支援を強化
- 令和4年2月 ● センターの情報システム更新に伴い電子カルテを導入



年間行事予定

- 4月 春の散歩会
- 5月 しょうぶ湯
新茶を楽しむおやつ会
新緑の散歩会
- 6月 茶話会
ミニ演奏会
- 7月 七夕の会
森林の湯
夏祭り
趣味の会の演芸
- 8月 すいか割り
- 9月 長寿の湯
演芸会
- 10月 文化祭
区民祭りへの参加
合唱会
- 11月 紅葉の湯
お好み寿司
わらべの会
- 12月 ゆず湯
年忘れの会
クリスマスの食事&ケーキ
年越しそば
- 1月 おせち料理
書き初め
お囃子と獅子舞
- 2月 中華飯店
- 3月 さくらの湯
- 月2回 コーラスクラブ
- 月2回 うたごえさろん
- 月1回 ガーデニングクラブ
- 月1回 民謡の会

※コロナ禍のため休止している行事があります。

要介護高齢者入所施設の今



しらさぎ苑の紹介はこちら▶



『共に歩んだ 30年』

独立行政法人 労働者健康安全機構
横浜労災病院

病院長 三上 容司



公益財団法人横浜市総合保健医療財団横浜市総合保健医療センター開設 30 周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

当院と貴センターは同じ新横浜の地にほぼ同時期に開設されました。当院も昨年 30 周年を迎えたばかりです。開院以来、当院は貴センターの介護老人保健施設などの協力病院の役割を担うとともに、貴センターには当院の倫理委員会、医科・歯科の研修管理委員会、治験委員会の委員を務めていただけてきました。また、当院で行っている研修医プログラムの実施においては、地域協力機関をお願いしています。地域包括医療の理念を理解し実践することを目的に、外来診療・在宅診療・介護・福祉に関する知識・技術・態度を身に着けるよう、研修医の研修にご尽力いただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、当院では昨年度より、PFM (patient flow management) の推進に取り組んで参りました。PFM は本来、患者さんの外来から入院、退院への流れを支援するものですが、これだけでなく、外来・入院前の医療機関、福祉施設との連携や、退院後の医療機関、福祉施設との連携、あるいは入院患者の病床管理を一元的・包括的に管理・運用することを目指しています。貴センターは患者の方々からの指名も多く、当院の PFM の推進において重要な役割を担っていただいております。引き続き連携を強化しつつ、地域の医療・福祉を推進していければ幸いです。

終わりに、貴センターの益々の活躍と発展を心より祈念申し上げましてお祝いの言葉と致します。

施設案内

横浜市総合保健医療センター TEL/045 (475) 0001
FAX/045 (475) 0002

- ◆精神障害者支援部門
(精神科デイケア・生活訓練・就労訓練・就労支援センター)
- ◆介護老人保健施設(しらさぎ苑) 80床
(認知症専門棟30床・一般棟50床・通所リハビリテーション)
- ◆診療所 内科・精神科(認知症診断を実施)
特定健康診査・横浜市健康診査
医療病床7床
- ◆介護医療院 12床
- ◆訪問看護ステーション「みんなのつばさ」
- ◆シニアフィットネス

◆港北区生活支援センター TEL/045 (475) 0120
FAX/045 (475) 0121

神奈川区生活支援センター **磯子区生活支援センター**

TEL/045 (322) 2907 TEL/045 (750) 5300
FAX/045 (322) 2908 FAX/045 (750) 5301

★横浜市総合保健医療財団は、指定管理者として、横浜市総合保健医療センター及び神奈川区・磯子区の各生活支援センターの運営を担っています。

交通案内



- ・ JR横浜線または市営地下鉄「新横浜駅」から徒歩約10分
- ・ 新横浜駅から市営バス300系統「浜島橋」下車徒歩1分
- ・ 第三京浜港北インターチェンジから車で約5分

発行日/令和4年10月

発行 公益財団法人横浜市総合保健医療財団 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1735番地
TEL/045 (475) 0001 FAX/045 (475) 0002 ホームページ/https://yccc.jp